

資料 2

第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告

令和6年12月6日（金） 名護市

目次

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容
2. 検討部会での意見交換内容
3. 次回に向けた検討内容

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要

■ 概要

- ・日時：令和6年11月12日（火） 10時～12時
- ・場所：名護市民会館中ホールおよびWEB
- ・議事
 - ・名護市総合交通ターミナル検討部会委員の追加・変更について
 - ・第2回名護市中心市街地まちづくり推進協議会の報告
 - ・バスタプロジェクトについて
 - ・第1回検討部会での主なご意見と対応方針について
 - ・名護市総合交通ターミナル整備に関する関係者意見の整理について
 - ・名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について
 - ・区域・施設配置の考え方について
 - ・今後の進め方について

■ 会議の様子



1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要

■ 委員名簿

(敬称略)		
区分	所属等	氏名
有識者	琉球大学工学部 准教授	神谷 大介
	東京大学大学院工学系研究科（工学部）教授	羽藤 英二
	名桜大学 副学長	林 優子
	名護市観光協会 理事長	前田 裕子
交通関係者	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 専務理事	大城 直人
	一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事	慶田 佳春
	一般社団法人 沖縄県レンタカー協会 会長	白石 武博
	株式会社琉球バス交通 代表取締役	小川 吾吉
	那覇バス株式会社 副社長	鹿毛 建造
	沖縄バス株式会社 代表取締役	新川 幹雄
	東陽バス株式会社 運輸部長	比嘉 良尚
	合同会社やんばる急行バス	谷田貝 哲
	株式会社北部観光バス 常務取締役	宮城 敦
	株式会社丸金交通 代表取締役	運天 健
	合資会社北部観光タクシー 代表	湖城 秀實
	第一マリンサービス株式会社 代表取締役	小田 典史

(敬称略)		
区分	所属等	氏名
行政	沖縄県警察本部 交通部 交通規制課長	伊集 守隆
	沖縄県名護警察署長	沖田 暢彦
	沖縄総合事務局 運輸部 企画室長	亀谷 匡哉
	沖縄総合事務局 開発建設部 企画調整官	関 信郎
	沖縄総合事務局 北部国道事務所長	屋我 直樹
	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課長	具志堅 清一
	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課長	久場 兼治
	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課長	下地 英輝
	沖縄県 北部土木事務所 技術総括	當眞 和彦
	沖縄県 企画部 交通政策課 公共交通推進室長	佐久本 愉
	沖縄県 北部農林水産振興センター 農業水産整備課長	兼次 孝彰
	名護市 建設部長	岸本 啓史
事務局	名護市建設部まちなか再開発・公共交通課	
	内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所調査課	

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 名護市総合交通ターミナル整備に関する関係者意見の整理について

3. 名護市総合交通ターミナル整備に関する関係者意見の整理について

3.4 結果まとめ

- ・ 関係者ヒアリングおよび高速バス・高速船利用者アンケートを通じて、総合交通ターミナルに関わる要望や意見を収集した。
- ・ 総合交通ターミナル整備を契機に、公共交通利用環境の改善や、北部地域全体の振興に関する期待の声が得られた。
- ・ 本調査結果も踏まえながら、名護市総合交通ターミナルの整備方針を検討する。

関係者ヒアリング	地域における交通課題	・ 名護バスターミナル周辺道路・高速アクセス道路の混雑、バス停の環境の悪化、運転手不足、観光客による交通事故、住民の自由な移動（免許非保有者含む）の確保…等
	利用者のニーズ・声	・ 公共交通のサービス向上、バスターミナルでの送迎のしやすさ、シームレスな乗り換え…等
	公共交通利用促進のための取組み	・ 交通事業者：タッチ決済やフリー乗車券、バス位置情報の公開…等 ・ 県・自治体：コミュニティバスの時刻表調整や基幹バスの導入促進、バス停環境の整備…等
	総合交通ターミナルに求める機能・施設	・ 交通モード間のスムーズな乗換え環境、待合空間・情報案内施設・チケット販売施設、パークアンドライド、ドライバーの休憩施設、道の駅のような飲食・物販施設、商業施設の併設…等 ・ 防災機能の確保や、北部地域全体の観光情報発信施設についても複数主体から要望あり
	二次交通として機能するために必要な事項	・ モード間の乗り継ぎを高めるため、広域交通と二次交通の近接性が重要…等
高速バス・高速船利用者アンケート	総合交通ターミナルへの期待・要望・時期	・ 周辺自治体や一部の交通事業者等から早期整備を望む声や ・ 総合交通ターミナルを拠点とした北部全体の振興への期待の声あり ・ 万が一、災害リスクや運営方法（停留料金の徴収等）等についても意見あり
		・ 多くの利用者から総合交通ターミナル整備が必要との回答が確認（回答の8割超） ・ 公共交通利用促進に向けては、拠点施設へのアクセス性改善、施設利便性の向上、料金の低廉化、速達性・定時性の改善が望まれた。 ・ 必要施設として、「トイレ・ロッカー等の利便施設」や、「快適な待合施設」等を求める意見が多い

意見・要望も踏まえ、名護市総合交通ターミナルの整備方針を検討

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4. 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4.2 整備方針（素案）の考え方

- 基本目標の実現に向けては、「交通機能」「防災機能」「交流等機能」を導入機能に位置付け、具体的な施設を検討する。[図4.1]
- 特に海上交通との結節性を生かしながら、名護ならではの魅力ある拠点形成を検討する。[図4.1]



図4.1 基本目標を踏まえた機能強化の方向性

画像出典：国土交通省「交通拠点の機能強化に関する計画ガイドライン」（令和3年4月）

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4. 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4.3 名護市総合交通ターミナル整備方針（素案）

- ・ 関係者意見等も踏まえ、北部地域・名護漁港周辺のポテンシャルや課題に基づく総合交通ターミナル整備の方針を整理。[図4.5]
- ・ 「暮らす人・訪れる人、誰もが利用しやすい居心地の良い新たなやんばるの玄関口となる臨海部のバスタ」[図4.5]



図4.5 名護市総合交通ターミナル整備方針（素案）

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4. 名護市総合交通ターミナルの整備方針（素案）について

4.3 名護市総合交通ターミナル整備方針（素案）

- 現在事業中・調査中の道路ネットワーク整備と併せ、「みち」「うみ」「まち」の近接性を生かした交通拠点整備により、高速バス・高速船による広域移動と、路線バス・各種二次交通による地域内移動が接続し、北部地域の回遊性向上を図る。[図4.6]



図4.6 名護市総合交通ターミナル整備方針（素案）

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 区域・施設配置の考え方について

5. 区域・施設配置の考え方について

5.2 名護市総合交通ターミナルにおいて提供されるサービス

- ・ バスタガイドラインや関係者意見等踏まえ、総合交通ターミナルで提供されるサービスを交通機能、交流等機能、防災機能ごとに整理。[図5.4]
- ・ 交通機能及び交流等機能については、利便性（交通処理等）や周辺まちづくりとの連携に配慮し、効果的かつ機能的な配置となるよう計画。
- ・ 防災機能については、備蓄倉庫等の専用施設を除き、各施設を災害対応用として活用することを想定。[図5.4]

※整備内容について決定したものではありません。今後、関係者等との協議を通じ更なる具体化を図り決定します。



1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 区域・施設配置の考え方について

5. 区域・施設配置の考え方について

5.3 区域・施設配置の検討パターン

- 交通機能について、国道58号に対する配置パターン（漁港側、中心市街地側、両側）ごとの特徴を整理。
- それぞれのパターンで生じる影響を勘案するとともに、検討部会での意見や関係者との協議を通じて配置を検討する。

交通機能の配置



1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 区域・施設配置の考え方について

5. 区域・施設配置の考え方について

5.3 区域・施設配置の検討パターン

- 交流等機能について、国道58号に対する配置パターン（漁港側、中心市街地側、両側）ごとの特徴を整理。
- それぞれのパターンで生じる影響を勘案するとともに、検討部会での意見や関係者との協議を通じて配置を検討する。

交流等機能の配置

交流等機能を 漁港側 に配置した場合



■ 配置パターンの特徴（例）

- 高速船利用者が交流等施設を利用しやすい
- 交流等施設からの名護湾の眺望を確保しやすい

交流等機能を 中心市街地側 に配置した場合



■ 配置パターンの特徴（例）

- 中心市街地と連携した賑わい創出が可能（名護市上位計画とも合致）
- ハーリー大会等イベント時にも、漁業活動に支障がない範囲で、漁港側を利用できる

交流等機能を 両側 に配置した場合



■ 配置パターンの特徴（例）

- 高速船利用者が交流等施設を利用しやすい
- 交流等施設からの名護湾の眺望を確保しやすい
- ある程度、中心市街地と連携した賑わい創出が可能
- ハーリー大会等イベント時にも、漁業活動に支障がない範囲で、漁港側を利用できる

1. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の概要と報告内容

1-2. 第2回名護市総合交通ターミナル検討部会の報告内容

■ 区域・施設配置の考え方について

5. 区域・施設配置の考え方について

5.3 区域・施設配置の検討パターン

- ・ 防災機能について、国道58号に対する配置パターン（漁港側、中心市街地側、両側）ごとの特徴を整理。
- ・ それぞれのパターンで生じる影響を勘案するとともに、検討部会での意見や関係者との協議を通じて配置を検討する。

防災機能の配置



2. 検討部会での意見交換内容

■ 主なご意見 (1/2)

No.	意見内容
1.	● 交通結節点の規模感や中心市街地とのつながり等、計画の全体像がまだ見えにくい。 ● 名護漁港周辺に特化するのではなくもう少しエリアを広げて考えることも有効である。一方で、イメージを伝えるための<u>模型やパースを用いて、わかりやすく伝えていく必要がある</u>。
2.	● 名護市総合交通ターミナル検討部会は交通機能を中心に議論していく場であり、中心市街地のまちづくりに関しては名護市中心市街地まちづくり推進協議会にて議論する。また、バス停の配置計画等については、名護市地域公共交通協議会で議論すべき事案である。この<u>3つの会議体が相互に連携</u>してやっていくことができればよい。
3.	● 防災については、沖縄県として地域防災計画を定めており、観光客に対しては沖縄県観光危機管理基本計画や実施計画を作り、<u>外国人も含め情報提供や帰宅支援に関する対応を計画</u>していく必要がある。
4.	● 総合交通バスターミナルですべての高速バスから乗り換えてもらうという考えではなく、那覇方面から北部までレンタカーで長距離の運転をしたくないという方もいるため、<u>交通手段の選択肢を増やし利用者の利便性を高めていくことが重要</u>である。
5.	● 本部港は、那覇港とは別にクルーズ船を誘致したいと考えている。現在、クルーズ船のバース整備が完了したため、今後はターミナルビル建設（民間事業）を推進し、<u>クルーズ客も北部地域で周遊ができるよう計画</u>を進めたい。
6.	● 今後の予定として「オープンハウス」が計画されているが、<u>公設市場等の中心市街地でも実施</u>したほうがよい。
7.	● 特定車両停留施設として整備すると、<u>バス営業所や修理場の機能をどうしていくかが課題</u>となる。2024年問題により、ドライバーの労働時間管理も厳しくなっている。
8.	● 本エリアは海拔が低く、<u>高潮に対する対応</u>も求められる。
9.	● 施設配置に関して、<u>名護市の経済活動を活性化させるために市街地側に交流機能を持たせる</u>というのは理解できる。ホテルや中心市街地を起点とする<u>回遊に基づいた空間設計やデザインのスタディが重要</u>。 ● 国道58号の動線が複雑になってしまうため、<u>公共交通の運用にも配慮し上下線に交通機能を割り付ける</u>。 ● 国道上空を活用し、海と街をシームレスにつなぎ、<u>防災機能も担保するデッキ</u>を整備する沖縄方式のバスタを目指すのが良いのではないか。

2. 検討部会での意見交換内容

■ 主なご意見 (2/2)

No.	意見内容
10.	● 能登地震では「のと里山空港」でボランティアの受け入れを実施しており、被災地内での渋滞を起こさせないように、レンタカーからバスに乗り換えて移動していた。 ● 沖縄でも、先日の豪雨経験も踏まえつつ、海側には比較的土地があるので、北部地域の防災拠点として名護バスタを明確に位置づけ、各市町村と連携ながら防災機能の充実もお願いしたい。
11.	● 「漁港」という特徴もあるため、このキーワード・視点も入れたほうがよい。 ● 観光客が本島内をどう動いているか、名護市内をどう動いているか等、人の動き踏まえたうえで計画していくべきである。例えば、観光客が美ら海水族館に行く場合、沖縄に来た当日に行くか、2、3 日目にいくのか等、行動パターンを踏まえ議論を深めていくことが必要と考える。

3. 次回に向けた検討内容

- 第3回検討部会に向け、名護市総合交通ターミナルの整備方針やイメージ、区域・施設配置計画の検討を進める予定。

6. 今後の進め方について

